

## 令和5年度第2回高知県食育連携推進協議会 議事要旨

日時：令和5年11月22日（水）午後2時～午後4時

場所：高知共済会館 COMMUNITY SQUARE 3階 大ホール「桜」

方法：対面とオンライン（Zoom）の併用開催

出席者：出席10名、代理出席1名、事務局14名

### ○協議事項

- （1）第4期高知県食育推進計画素案について
- （2）策定までの今後のスケジュールについて

### ○議事等概要

#### （1）第4期高知県食育推進計画素案について

##### ■第1節 高知家の未来を担う子どもの食育の推進について

- ・委員より、資料1 P31のところで、中学・高校生は難しいが、小学生の保護者に対して参観日などを利用し、学校行事の中で保護向けの講演会を開催してはどうかという意見があった。事務局から、PTA総会での早寝早起き朝ごはんの講演会等の実施や、参観日に健康に関する研修会を開催するなど学校行事と連動した取組を行っている。ただ、学校によって取組状況が違うため、こちらからも朝ごはんの重要性を発信し、関係者と連携しPTA活動においても啓発が行えるように取り組んでいく旨を回答した。
- ・委員より、子ども達の朝食摂取率について、100%を目指していく必要があると思っているが、今年度のアンケート調査結果でも、小学生の必ず食べる子ども達の割合は約85%、中学生は約77%と昨年度から横ばいで、現状維持が精一杯の状況。子ども達や保護者に対し働きかけをしているが、講演会を実施しても課題のある家庭の方の参加が難しい状況にあるため、子ども達自身が力を身に付けることが重要になる。昨今の物価高騰の影響で、子ども達の朝食内容が主食だけであったりなど、内容が乏しい子ども達が増えている。また、家庭で時間がなく準備ができなかったり、子どもが食べたいものがなければ食べないといった状況もあるため、子ども達が自己管理能力をつけていくために、自分達はこういった取組ができるのか、子ども達自身が感じ、考えられるような指導内容を考えていかなければならないという意見があった。
- ・委員より、社会情勢の変化の中で子ども達の朝食摂取率の目標値がかなり高い値ということだが、95%の目標値には1人でも多くの子ども達に朝食を食べる習慣をつけてほしいという思いがあり、朝食を食べることによって午前中集中して学習に取り組むことが食育として大切だということをこだわりたい。先ほどの説明で2点ほど疑問点があり、全国平均以上を目指す1人でも多くの子どもが朝食を食べて集中して学習に取り組むことができるのか、そして全国平均を達成したら高い値に引き上げるのかということ

と、かけ離れた目標値の設定で現場の先生方の士気が上がらないことなら、全国平均以上なら現場の先生方の士気が上がるのかというところを説明してほしいとの意見があった。事務局から、客観的に見て高知県がどの位置にいるのかということが分かりやすいのは、全国平均と比べることではないかと考えている。1人でも多くの子どもが朝食を食べ、成果として実りのある学校生活を送ってもらいたいと現場の教員も考えており、食べられる状況にあるが食べる習慣のない子ども達や物価高騰などの影響で朝食を食べることが大変な家庭など、それぞれの状況にあわせ、全体指導と個別支援の両輪で実施しないと95%は到達できないと考えている。まずは、全国平均を目指して朝食を食べることができる。そして、食事の内容を充実することができる子ども達になるよう栄養教諭による全体指導で摂取率を上げていく。加えて、個別の指導をチームで行っていく。全体指導と個別の指導を両輪で行うことが必要と考えており、この計画では個別指導は反映させていないが全体を上げていく指標として全国平均以上とした。また、1人でも多くの子ども達が朝食をしっかりと食べてしっかりと教育を受けることが目指す姿であり、ひとまず全国平均を目指し、そこに届けばさらに上を目指していくことには変わりはありません。現場の士気については、寝るのが遅い→朝起きれない→朝食が食べられないという負のループに入っている状況にあっても懸命に指導を続けており、1回目標を達成しみんなの指導が実りあるものになることとあわせ、個別の指導も継続し効果的な指導に改善していきたいと考えている。また、これらの両輪の指導により上がるということを方向性として示していきたいと考えている旨を回答した。

- ・委員より、コロナ前には子ども食堂や学校で朝食を出す取組があったが、コロナの影響で出来なくなった状況もあると思う。食べる環境を用意するためには、社会資源の利用や充実を図ることも考えていかないと学校や家庭だけのアプローチでは限界があるのではという意見があった。

## ■第2節 健康長寿を実現する食育の推進

- ・委員から、よくかんで食べている県民の割合の指標は、例えば1回あたり30回かんで食べるといったことを指標としているのか、もしくは個人の意識として行っているのかという質問があり、事務局から、県民健康・栄養調査の生活習慣調査の結果であり、個人の意識を把握するものであることを回答した。
- ・資料1 P38で、低栄養レシピの活用とあるが、低栄養予防レシピがよいのではという意見があり、事務局から訂正する旨を回答した。
- ・資料1 P39の指標「むし歯のない3歳児の割合」を近似曲線から算出したことについて質問があり、事務局から、令和2年度の3歳児歯科健康診査の結果をもとに近似曲線により令和8年度までの値を予測し、令和8年度には92%になるであろうと仮定し、目標を92%に設定していることを回答した。

## ■第3節 持続可能な食の理解と継承

- ・委員から、高齢者や保育園に通っている子育て世代の人から生活が大変厳しく食品など

- をもらいたいけどどこに言えば良いのか分からないという声を聞く。フードバンクの言葉や支援が必要な方に伝わっていないところがあるため、もう少しハードルを低くし利用しやすいシステムづくりが必要という意見があり、事務局から生活困窮者等必要とされる方に集まった食品をいかに適切に届けられるかについては地域福祉政策課が所管しているため、所管課に伝え、適正に回っていく仕組みを作っていきたい旨を回答した。
- ・委員から、給食の地産地消の取組について、学校給食で年間に使用する数量が分かれば JA と協力して生産者に作ってもらえるような仕組みができると良い。生産者も助かるし給食にもっと地場産物を取り入れることができるのではないかという意見があり、事務局から、生産者や流通関係者、給食関係者、行政それぞれの立場で意見を合わせ、よりよい活用ができるようにしていきたいと回答した。

#### ■第4節 食を育む環境づくり

- ・委員から、資料1 P50 の取組に、栄養を楽しむ生活を応援する週間、栄養週間（8月1日～8月7日）を追記してほしいとの意見があった。

#### (2) 策定までの今後のスケジュールについて

事務局より資料2をもとに策定スケジュールについて説明を行った。

今回の協議内容について了承され、以上で会議を終了した。